

食料カンパニー

- 食品原料・素材
- 食品製造加工
- 中間流通



食料カンパニー プレジデント
貝塚 寛雪



- 左から
- 食糧部門長 宮本 秀一
 - 生鮮食品部門長 鯛 健一
 - 食品流通部門長 佐藤 英成
 - 食料カンパニーCFO 相馬 謙一郎
 - 食料経営企画部長 阿部 邦明

Strength カンパニーの強み

- 業界トップクラスの中間流通・リテールネットワーク
- 世界に広がる生鮮3品(農産品、畜産品、水産品)の生産・流通・販売バリューチェーン
- 食糧資源のグローバルサプライチェーン

事業展開

国内事業損益割合(イメージ)

60%



地域区分: ◆ 国内 ■ 北米 ■ 欧州 ■ 中国・アジア ■ その他海外

* 一般投資先

2020年度レビュー(確実な成果)

$$\frac{\text{創出価値}}{\text{資本コスト}} = \text{成長率}$$

- HYLIFE社を通じたProVistaグループの養豚事業、Prime Pork社の買収による北米地域の豚肉一貫生産拠点の拡大
- グループ卸を通じた小売業のDXを支援するデジタルサービスの展開、データ活用に基づく食品サプライチェーン最適化の推進
- 生産者の持続可能な生産を支援するコーヒーのトレーサビリティプラットフォームFarmer Connect社に出資

成長機会の取込み(持続的な成長)

$$\frac{\text{創出価値}}{\text{資本コスト}} = \text{成長率}$$

- 食の安全・安心を担保する生産拠点の拡充と安定的な供給網の整備
- グループの幅広い商品群・機能・ノウハウと新技術を活用し、食料分野における提供価値の多様化を推進
- 消費者ニーズを捉えた高付加価値原料・製品を中心とした海外での事業基盤拡大
- 食品原料・素材領域での地場産業の育成を通じた雇用拡大・生活環境向上を企図した産地開拓
- 食品流通分野の機能拡充によるバリューチェーンと合理化された物流オペレーションの強化

リスクへの対応(資本コストの低減)

$$\frac{\text{創出価値}}{\text{資本コスト}} = \text{成長率}$$

- 天候・疫病リスクを踏まえた産地の多角化による安定した生鮮食品の供給
- 環境保護や人権を尊重した持続可能な食糧資源の調達体制強化
- 加工食品事業におけるグリーンエネルギーの活用を通じた環境負荷の低減
- FSMS(食品安全管理システム)の審査に関する国際認証資格保有者を増強
- 第三者機関の認証や取引先独自の行動規範に準拠した調達体制の整備

サステナビリティアクションプランに対応する項目に、該当するマテリアリティのマークを付しています。アクションプランの詳細は、当社ウェブサイトをご参照ください。 <https://www.itochu.co.jp/ja/csr/itochu/activity/actionplan/>

- 技術革新による商いの進化
- 気候変動への取組み(脱炭素社会への寄与)
- 働きがいのある職場環境の整備
- 人権の尊重・配慮
- 健康で豊かな生活への貢献
- 安定的な調達・供給
- 確固たるガバナンス体制の堅持

「マーケットイン」による事業変革の具体例



Provence Huiles社製のSDGs対応グレープシード油

仏国Provence Huiles社の完全子会社化について

当社は、欧州を中心に植物油製造・販売事業を展開するProvence Huiles社(PH社)を完全子会社化しました。

PH社は、世界最大規模の生産量を誇るグレープシード油や、高オレイン酸ひまわり油等の機能性の高い植物油を主に取扱っており、厳格な運用が必要なオーガニック油等のサステナブル対応製品にも注力しています。

当社は2015年9月の資本参加以降、PH社と当社の北米・アジアにおける販売力を繋ぎ合わせ、機能性植物油バリューチェーンの強化を積極推進してきました。このたびの完全子会社化を通じ、柔軟かつ機動的な経営を実現することで、消費者の健康志向の高まりや多様化する消費者ニーズをより機敏に捉えた商品供給体制を構築していきます。



油脂課
保田 洋祐